

1. 授業の目標
WRDの趣旨に則り、大学における study (勉強・研究) に必要な技能 (skills) を習得させる。
2. 授業形式
授業中にその場で作業をすることを通して技能を習得させる。
3. 評価方法
次の4点を総合して評価を決める。前期も成績を出す。
 - ①出席状況
 - ②授業中の作業の一つ一つ → 各自の作業を観察
書かせたものは提出させ、翌週返却
 - ③提出物 (発表原稿など)
 - ④期末試験 (筆記)
4. 授業内容
 - 4-1. 前期
教科書に基づき、writing, reading に関する技能を習得させた。
 - 1) 教科書
学習技術研究会編著『知へのステップ — 大学生からのスタディ・スキルズ —』
改訂版 2006年10月 くろしお出版 (2002年4月初版発行)
 - 2) 概要
 - ① study (勉強・研究) の心構え
積極的な学習姿勢
 - ② ノート・テイキング
ノート・テイキングの技法 → 実践練習
 - ③ リーディング
リーディングの種類 (skimming, scanning, critical reading)
要約
要約の種類 → 実践練習
感想・意見
 - ④ 大学図書館における情報収集
成城大学図書館に則して
 - ⑤ 発表
5分間発表 主題: 学科科目紹介/職業調査
1分間要約 (←メモをとる、質問)
発表原稿を手直して提出
原稿用紙の使い方
 - ⑥ レポートの書き方
レポートとは
作成のスケジュール
文章の構成
引用の仕方・注の付け方

⑦前期期末試験

問題予告 (6月28日) → 試験期間中に試験 (7月26日)
問題: 「WRDの授業で前期中に学んだことを書きなさい。」
試験場で一切の参照物なしに書く

4-2. 後期

discussion と debate の実践

1) 主たる参考文献

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』2007年4月 くろしお出版
(第6章ディスカッション、第7章ディベート)

2) 概要

9月27日

ディスカッションの種類
バズセッションの仕方
バズセッションの実践

主題: 「幽霊は実在するか」
「犬と猫はどちらが可愛いか」

5~6名のグループ、教員が司会
残りの者は各自、議論のメモをとる → 議論全体の要約 (提出)

10月4日

バズセッションの実践

主題: 「東京でオリンピックを開催するべきか」

10月11日

バズセッションの実践

主題: 「日本でもサマータイムを導入するべきか」

10月18日

ブレインストーミングの仕方

ブレインストーミング+KJ法の実践

主題: 「日本のよい点、悪い点」

6~7名のグループ × 3

各グループに、記録係2名、仕分け係2名、報告者1名を指名

10月25日

ブレインストーミング+四段階討論法の実践

主題: 「成城大学のよい点、悪い点」

5~6名のグループ × 3

各グループに、記録係1名、報告者2名を指名

11月8日

ディベートの仕方

フローシート、ジャッジシートの書き方の実践

教材: DVD収録のディベート (「小学校からの英語教育必修化は必要か」)

11月15日

ディベートの仕方およびフローシート、ジャッジシートの書き方の検討

教材: DVD収録のディベート (同上)

WRD

学期末試験問題

予告

WRDの授業で前期中に学んだことを書きなさい。

分量：B4版試験用紙 表1枚
用紙の左右にそれぞれ2～3cmの余白を設けること

下書き、メモ、電子辞書等、一切の参照物の使用は不可

注意事項：

- 1)教科書を読んだり、教員の説明を聴いたり、実際に作業を行ったりして学んだことの内容を文章で説明すること。
- 2)具体的に、順を追って書くこと。
- 3)学んだことの要点を明確に書くこと（重要点をはっきりさせること）。
- 4)箇条書きにしてもよいが、必ず文章で述べること。語句を並べるだけの箇条書きは不可。
- 5)前期中に学んだことを、全体的に、漠然と、感想を交えて述べるのは不可。

学科科目紹介について

発表時間：5分

発表内容：自分が受講している学科科目の中で、
自分にとって有益な科目あるいは好きな科目 一つ 内容、理由
よさがわからない科目あるいは嫌いな科目 一つ 内容、理由

注意：科目名を正確に記す。担当教員名は伏せる。自分の学科の学科科目の中に該当する科目が無い場合には、その他の科目の中から選んで紹介してもよい。

職業調査について

発表時間：5分

発表内容：一つの職業について、
①その内容
②必要とされる能力・適性
③就職するための手順
④自分との関係（自分の希望／興味がある／自分は嫌い など）

注意：情報源を正確に記す。上の4項目の順序は守らなくてもよい。

発表原稿の提出

どちらの発表についても、発表後に手直した発表原稿を、発表の翌週に提出すること。